

ID No.	234
研究課題名	アトピー性皮膚炎自然免疫型発症機構の解明
研究代表者	森田 英明 ((独) 国立成育医療研究センター研究所・研究員)
研究組織 受入教員 研究分担者	中江 進 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究報告書	
アトピー性皮膚炎患者の皮膚で高頻度に検出される黄色ブドウ球菌由来のプロテアーゼを用いて、皮膚炎発症におけるプロテアーゼの役割を検討し、以下の結果を得た。 1. 黄色ブドウ球菌由来のプロテアーゼを塗布することにより、アトピー性皮膚炎様の皮膚炎が誘導される事を見出した。 2. BALB/cマウスと比較してC57BL/6マウスの方で皮膚炎が強く誘導される事を見出した。 3. プロテアーゼによる皮膚炎は、T細胞、B細胞、NKT細胞が関与していないことを見出した。 4. プロテアーゼによる皮膚炎は、上皮細胞由来サイトカインであるIL-33、IL-25, TSLPが関与していないことを見出した。 以上の結果から、黄色ブドウ球菌由来のプロテアーゼが、獲得免疫系を介さずにアトピー性皮膚炎の発症に関与する可能性が示唆された。	